



1 ふぞろいシリーズとの最初の出会い

私は平成20年度の合格者ですが、初めてふぞろいシリーズに出会ったのは、平成19年度の1次試験終了後でした。正確にいえば、前シリーズの『80分間の真実』という書籍名で、合格者10名前後の再現答案を集めて販売されていました。

当時の私は、2次対策を始めるにあたって、通っていたTACの演習に加えて、過去問学習が不可欠だと認識していました。ところが、過去問を解いても模範解答には遠く及ばないことを痛感し、どのように対応力向上に取り組むべきかを迷って相談した先輩から勧められたのです。合格者が実際に本試験で解答した内容を確認できる教材であることに魅力を感じたものの、結局、購入には至りませんでした。理由は、以下の3つです。

- ・演習や模試の復習、過去問に取り組むだけでも手一杯だと感じていたから
- ・合格者10名前後という母数の少なさに物足りなさを感じたから
- ・有効な使い方をマスターするまでに相当の時間を要すると考えたから

今、振り返ってみても、受験1年目の私は、2次対策に関する経験値も乏しく、過去問6年分(平成13~18年度)に取り組むだけで手一杯でした。また、2次対策の経験値がある先輩方の勉強会に毎週参加させてもらい、過去問の解答プロセスのディスカッションを行う機会にも恵まれていたので、必要性はそれほど感じませんでした。

2年目は、前年からの積み重ねがあったため、春頃から演習や模試の成績も安定しつつあり、TACメソッドをベースに講師の教え方をほぼそのまま自分のものにしたことで、過去問を解いても「この解答要素は取るべき、この要素はいらない」といった判断ができるようになっていました。

これは、仲間との勉強会によるところも非常に大きかったです。自ずとTACの演習でも「取るべきところと、取らなくてもいいところ」の見極めができるようになりました。TACや他社の模試でも安定して成績上位であり続けた最大の理由は、ここにあると思っています。

結果的に、受験生時代の私は、ふぞろいシリーズを使うことなく、2次試験に合格することができました。講師になってからも、自らの経験により特に必要な教材だとは認識していませんでした。ただし、「最初の数年は」です。

2 講師になってから毎年聞かれる質問

私は、合格した翌年にTACの講師になってからも、後輩の勉強会に参加したり、2次対策クラスのチューターをやったり、自らが担当講師になったりと、継続して2次対策に関わってきました。そんな中、毎年必ず数人に聞かれる質問、それが「ふぞろいは使ったほうがいいですか?」、「ふぞろいはどう使えばいいですか?」というものです。

本来、TACの教材ではないので、私に聞く質問ではないかもしれませんが、講義以外の勉強会やオンラインでのコミュニティでもフォローアップしていることから、皆さんさまざまな質問を投げかけてくれるのです。私が通学していた当時は、元TAC生の再現答案を教材とした「再現答案分析講義」があったため、ふぞろいシリーズの必要性に乏しかったのですが、再現答案を扱う講義がなくなってからは(2021年合格目標では教材のみ配布中)、TAC生の中でもふぞろいシリーズの読者が増え続けていきました。

「もはや、無視できる存在ではない」
そう認識した私は、ふぞろいシリーズについてしっかりと学び、受験生に対して的確なアドバイスができるようになるために、本特集を企画しました。長年気になる教材であったことに間違いはなく、コレクターばりに所有しています(笑)。



筆者が所有するふぞろいシリーズ

3 ふぞろいシリーズを使うべき受験生

とはいえ、受験生全員にマストなツールだとは思いません。ふぞろいシリーズに限らず、これをしておかないと合格できないという教材など存在しません(過去問を除く)。

では、どのような受験生に必要なのでしょうか。私は、以下の3要件を満たす方にとっては、ふぞろいシリーズは優先度の高い教材と考えます。

- ・独学者
- ・勉強会など、他の受験生が作成した答案を入力する機会がない方
- ・学校の演習や模試の解説を聞いても、得点すべきところとそうでないところの見極めができない方

4 合格するために不可欠な判断軸

私自身が、2次対策の講義において、繰り返し伝えているメッセージがいくつかあります。

- 「各設問の得点できる要素を見極めること」
- 「難易度を評価したうえで、優先度が高いと判断した設問から順に処理していくこと」
- 「他の受験生が書きそうな解答を書くこと」(寄らば大樹の陰理論)

こうした判断軸は、全受験生が身につけるべき思考プロセスであり、今や300名以上の再現答案をもとに制作されているふぞろいシリーズを活用することで、徐々に身につけていきます。

本特集は、ふぞろいシリーズ初心者から上級者まで、多様なレベル感に合わせた具体的な活用の仕方が紹介されています。ご自身の現状に合ったレベルをチョイスし、今すぐ試してみましょう!